

令和3年度ごみ量について

1 実績

単位：t

総ごみ量	令和3年度	42,108	総資源化率	令和3年度	38.4%	1人1日当たり ごみ量	令和3年度	616g
	令和2年度	43,175		令和2年度	39.2%		令和2年度	633g
	増減率	▲2.5%						

可燃ごみ	令和3年度	22,286
	令和2年度	22,464
	増減率	▲0.8%

不燃ごみ	令和3年度	1,325
	令和2年度	1,474
	増減率	▲10.1%

有害ごみ	令和3年度	69
	令和2年度	69
	増減率	▲0.6%

プラスチック	令和3年度	3,141
	令和2年度	3,239
	増減率	▲3.0%

粗大ごみ	令和3年度	1,194
	令和2年度	1,207
	増減率	▲1.0%

持込	令和3年度	4,923
	令和2年度	5,168
	増減率	▲4.7%

資源物	令和3年度	9,169
	令和2年度	9,554
	増減率	▲4.0%

ペットボトル	令和3年度	419
	令和2年度	406
	増減率	3.3%

紙パック類	令和3年度	56
	令和2年度	60
	増減率	▲6.5%

新聞紙	令和3年度	295
	令和2年度	296
	増減率	▲0.2%

小型家電 金属	令和3年度	474
	令和2年度	559
	増減率	▲15.1%

段ボール	令和3年度	1,921
	令和2年度	1,998
	増減率	▲3.9%

びん	令和3年度	1,332
	令和2年度	1,350
	増減率	▲1.3%

缶	令和3年度	427
	令和2年度	425
	増減率	0.5%

雑紙	令和3年度	3,046
	令和2年度	3,284
	増減率	▲7.2%

古布	令和3年度	1,198
	令和2年度	1,176
	増減率	1.9%

2 分析

◆総括として、ごみ・資源物量は、新型コロナの影響が顕著であった令和2年度と比較して、全体的に減少傾向（コロナ以前の水準に近づいた）。個別には以下の通り。

- ・資源物収集量の減が総ごみ減少量の内で最大。特に雑紙、小型家電、段ボールの減が顕著。令和2年度は、コロナ禍の影響により、断捨離による廃棄や特別給付金による買い替えが多かったと思われるが令和3年度はその影響が落ち着いてきたと思われる。
- ・資源物の内、雑紙の減少量が最大（▲238t）。コロナ以前から減少傾向であったが、特に紙需要が大幅に落ち込んだ影響が出ていると思われる。
- ・ペットボトルと缶は、大幅増の令和2年度よりさらに増加。家庭での飲料消費が多い状況が続いたと思われる。
- ・可燃ごみは、人口が増加（+301人）しているものの、微減を継続。